

---

# ブレイク

きよこ

---

## 注意事項

このPDFファイルは小説サイト「小説家になろう」で掲載中の小説を、「PDF小説ネット」の変換システムが自動的にPDF化したものです。この小説の著作権は作者にあり、作者または「小説家になろう」および「PDF小説ネット」を運営するウメ研究所に無断でこのPDFファイルおよび小説を引用を超える範囲で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止します。小説の紹介や個人用途での印刷および個人用途での保存はご自由にどうぞ。

### 【小説名】

ブレイク

### 【コード】

N5606C

### 【作者名】

きよこ

### 【あらすじ】

あたしは想像する。世界が壊れていく様を。

ブレイク

あたしは想像する。  
この世界が壊れる様を。

三階のこの教室からは、渋滞した道路や何も無い野原の先に、駅の周りを囲むビル群が見える。

あたしは窓からそれを眺めて、いつも想像するんだ。  
道路が沈み、車が落ちていく姿を。

野原が割れ、雷のような模様が地面に刻まれる姿を。

ビルがガラガラと崩壊し、跡形も無くなる姿を。

あたしが思い描く崩壊の風景に、人はいない。あたしは人が死んでほしいからこんな想像をするんじゃない。あたしが生きているこの世界が大嫌いだから、無性に壊したくなるんだ。

あたしには世界を壊す大魔王みたいな力は無いし、それが出来るような権力だつて無い。だから想像する。想像の世界ではあたしだけが王様だ。何をしても咎めるものなんていない。自由だ。

朝露を含んだ葉が、太陽の光で輝く。鳴り止まない蝉時雨。

蝉時雨。雨のような蝉の声。綺麗な言葉だ。

青く澄んだ空に広がる入道雲は本当に真っ白。

むせ返るような湿気の渦が取り巻いているのに、光は白く、白く、どこまでも綺麗。

ブレイク  
時折吹く風が、汗でじっとりとしたシャツをぬぐってゆく。気持ちいい。

目をつぶり、想像を繰り返す。  
コンクリートの塊がガラリと落ち、アスファルトの地面を叩きつける。窓ガラスは割れ、光の粒のように輝きながら降り注ぐ。  
崩れ行く世界。壊れていく世界。何もかもが無くなっていく世界。

目を開けると、目の前には書きかけのプリントがあった。補習授業の最中だったことを思い出す。

勉強することに何の意味があるんだろう。このプリントに描かれた暗号みたいな数字の羅列が、あたしのこれからの人生に役立つのだろうか。

短くため息をつき、プリント用紙に数字を並べてゆく。あたしに必要があるが無かるうが、これをどうにかしなければ進級出来ないんだ。やるしかない。

チャイムの音がようやく鳴る。教師が出て行く姿を見送り、あたしはもう一度目をつぶった。

世界はどうして今の形になったのだろうか。人間はどんな経緯をたどり、猿から進化していったのだろうか。何万年、何億年の長い月日は想像をはるかに超えて、あたしには想像すらできない。

「帰らねえの？」

頭上の声を無視しようと思ったけれど、あたしは目を開け、彼を睨んでいた。

「帰るよ」

「まさかお前が補習に出てるとはな。中学までは頭良かったじゃん」

ブレイク

同じ中学だった、この男。中学時代はイモだったのに、今はそれなりに格好つけてる。腰ではいたズボン。逆立った茶髪。けれど、昔の名残を感じる、純粹さを湛える黒い瞳。

「勉強なんてつまらない」

「優等生だったのに」

「あたしは優等生じゃない。くそつくらえだ。世の中全部」

「なんでそう思うの」

なんで？

茶髪の隙間からのぞく黒い瞳に、澄み切った青い空が映っていた。

「あたし、原始人に生まれたかった」

彼はブハツと吹きだした。あたしの机に彼の唾が一粒落ちた。彼は「悪い」と言っただけを大きな手で拭い、「なんで」とまた笑った。

「何も考えないで生きられるじゃん。食うか寝るかしか無いんだよ」

「原始人には原始人なりの悩みがあるだろ」

「例えば？」

「イノシシを獲るには、どこに行ったらいいか、とか」

そんなの悩みのうちに入らない。あたしは口を尖らせ、机に突っ伏した。無機物は熱をもたず、熱に浮かされたこの体には心地いい。

「何か、悩みでもあんの？」

「……特に無い」

「じゃあ、なんでそんなお疲れ気味？」

## ブレイク

うんこ座りした彼と視線が合う。空の青を映していた瞳に、あたしが映っていた。

「そういう時ってない？ 特に何も無い人生が嫌になるの。生きて

いる理由なんていらなと思うけど、生きてるって実感がほしい。あたしには何も無くて、何も悩みようが無くて、ただ息をしているだけ。同じような毎日を繰り返してるだけなんだよ。なんでこうなんだろ。だから」

だから想像する。あたしが壊れていく姿なんて想像したくないから。世界が壊れていく姿を想像する。あたしが壊れるのが嫌だから、世界が壊れてしまえばいい。

崩壊して瓦解して、すべてが無に帰っていったら、あたしに変化は起きるのだろうか。日常が壊れてなくなったら、あたしはなにを実感するのだろうか。

「じゃ、悩みをひとつあげようか」  
「なに？」

立ち上がる彼の白いシャツがまぶしい。

いつの間にか教室には誰もいない。あたしと彼だけが取り残された、狭い教室。掲示板に貼られた白い紙が風でハタハタと音を立てていた。

「俺と付き合わん？」

「は？」

「優等生が悩んでる姿に惚れちゃった」

彼はいたずらっ子みたいな笑みを浮かべ、あたしに向かって手を伸ばしていた。

変わらない日常が壊れていく。

沈むゆく道路。野原を裂く地割れ。ガラガラと崩壊するビル。まぶたの裏で、確かに世界が崩壊していった。

「考えとくよ」

あたしは彼の手を取り、立ち上がる。彼は変わらない純粹な黒い瞳を輝かせ、あたしの手を強く握りしめた。

世界が壊れてゆく。日常が破壊される。

彼の持つとんでもない破壊力は、あたしをあっという間に想像の世界から連れ出した。

なんだ。意外と人間って単純なんだな。

「帰ろうか」

「一緒に？」

「しょうがないからね」

明日からはどんな想像をしよう。  
きっと世界はもう破壊できない。

(後書き)

お読みいただき、ありがとうございました。

変わらない毎日が続くと、江戸時代とか別の時代に行きたくなりま  
す。現実逃避です(笑)

この主人公のように特に悩みが無い時ほど、現実逃避したくなるよ  
うな気がします。

読んでくださった皆様は、どうですか？

ご意見ご感想、お待ちしております。

# 広告募集中

小説関連広告に最適です。  
出版社や印刷会社はもちろん、  
個人の広告でもOK

縦：140mm 横：110mm

詳しくはPDF小説ネット広告募集をご覧ください。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネットは2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5606c/>

---

ブレイク

2008年8月29日18時39分発行